

アート & カルチャーでねりまをもっと楽しく

NERICUL

(公財)練馬区文化振興協会情報誌「ねりかる」vol.21

2021 Spring



特集

コロナ禍で考えたこと、これからのこと

コロナ禍で 考えたこと、 これからのこと

新型コロナウイルス感染症の拡大により、この1年で社会は大きく変化しました。(公財)練馬区文化振興協会が管理運営する施設でも、自粛要請に伴う事業の中止、緊急事態宣言による2か月弱の臨時休館、施設再開後も利用制限等を設けながらの施設貸出や事業実施など、これまで経験したことのない対応を取りながらの運営となりました。文化芸術の世界は、人が集まることを前提としています。その前提が大きく崩れ、不要不急という言葉で括られる中、もどかし

ホール運営から見たこと、感じたこと

練馬文化センター・大泉学園ゆめりあホール 浦しげみ (施設管理)

練馬文化センターと大泉学園ゆめりあホールでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020(令和2)年2月中旬から施設利用のキャンセルが相次ぎ、3月は利用がほとんどなくなるという状況になりました。主催公演も中止や延期となり、チケット代金の払い戻し作業も始まると通常業務は完全に逆行し、業務量は倍増していきました。すべてが初めての経験であり、来館者そして利用者が混乱しないように、個々の対応を確認しながら試行錯誤の連続でした。

その後、4月に緊急事態宣言が発出されると約50日間の臨時休館となりました。人々が集うことでその役割を果たす場所に人がいない、静まり返った施設ですべてが止まってしまった感覚は、違和感という言葉だけで表現できるものではなかったように思います。6月の再開後は、感染者数の増減や国や都、練馬区の方針により、施設の利用制限やルールはその都度変更を繰り返し、コロナ以前に戻る見通しは現在も立っていません。先の見えない中で判断していく日々は、もうしばらく続きそうです。

この約1年間、プロの表現者から発表会を控えた子どもたちまで、施設を利用するすべての人が、不要不急や自粛という言葉とともに立ち止まり、それぞれの表現や活動についてどのようにするべきか考えざるを得なかったことと思います。様々な意見がある中で、迷いや葛藤もあつたはずですが。本来の姿を取り戻せない現状で、これからの文化施設がどのようにあるべきか、未だ明確な答えを出すことはできていません。これまで以上に施設利用のニーズは多様になり、対応は柔軟さが求められると思いますが、それはコロナ禍に限ったことではなく、冷静な判断とともに長期的な施設運営の視点が必要であることを強く感じています。重要なのはむしろコロナ終息後であり、そこから時間をかけて取り組む課題も少なくありません。その一方で、現場での小さな決断の積み重ねが、今後の文化施設としての姿をつくっていくということを忘れずに、日々の業務に取り組んでいきたいと考えています。

ふるさと文化館が展覧会を企画する意味

石神井公園ふるさと文化館 小宮 佐知子 (学芸員)

2020(令和2)年4月18日、私は、企画展「スポーツの祭典1964ーオリンピックと練馬ー」の会場で、来館者を迎えているはずでした。しかし実際は、何も無い企画展示室で、1人展覧会初日の4月18日を迎えました。なぜなら10日程前に企画展の中止が決定され、ふるさと文化館は4月11日より休館しました。職員は在宅勤務となり、当番の職員のみが出勤するという未曾有の事態となっていたからです。

企画展は、資料も借用して出番を待つばかりで、小冊子も校了直前でした。練馬とオリンピックの関わりを掘り下げ、1964(昭和39)年のオリンピック関係者、当館サポーターにも協力もいただき、東京2020オリンピック・パラリンピック成功への思いも込めただけに、開催目前で全てが消えてしまったことは、本当に残念でなりませんでした。

この時、私は企画展示室で、半年前に担当した特別展「病退散ー江戸の知恵と医術ー」のことを思い出しました。展覧会は、江戸時代の疫病の流行と恐怖、その中でもたくましく生きる人々、命を救うために尽力する医師の姿を取り上げた内容でした。資料を読み込み、展示を考えていた頃、私は先人の生きざまに感銘を受けつつも、疫病の流行は過去のことと考える自分がいました。それがどうでしょう。この日、企画展示室に足を運んだことで、私の頭の中に特別展「病退散」が再現され、江戸時代と全く同じことがまさに今、世界的に起こっていると認識することができました。コロナ禍もいつか克服する時が来る、今が耐える時だと、展示資料が語りかけ、私を落ち着かせているようにすら感じました。

博物館は、人間が日々の暮らしをよりよいものにするために必要な施設だと思います。それは、コロナ禍の中でも多くの人が当館に訪れていることから言えるでしょう。私は、展覧会を担当すると、個々の史資料の秘めた熱量が私に伝わっていくのを感じ、毎回、展示テーマ・展示資料の全てが愛おしく大切なものとなります。担当した展覧会で、来館者の心に伝わるものがあつたならば、きっとその方の未来のためになると信じ、展覧会を企画しています。私は、学芸員としてこの仕事を大切に思っています。これからも資料を通じ、展覧会を通じて練馬区の方々に発信を続けていきたいと考えています。

さや戸惑いを感じながらも、自分たちにできることは何かという問いと向き合い、各施設の現場では様々な工夫を凝らし取り組んでいます。

『NERICUL』vol.21は、各施設の最前線で働く職員による「コロナ禍で考えたこと、これからのこと」を紡ぎ合わせてお届けします。振り返ることも立ち止まることもありながら、それでも新しい明日をつくっていくために、これからも私たちは文化芸術の魅力を発信していきます。

美術館の教育普及担当として

練馬区立美術館 真子 みほ (学芸員)

練馬区立美術館は4月の緊急事態宣言に伴い、26日からオープンする予定だった「ショパン—200年の肖像」展が開かれず、多くの申し込みがあった講演会や演奏会も中止となりました。6月2日に「ショパン」展が開会したのは、人数制限をしながら多くの来館者があり、また音楽家の展覧会ということで初めて来館される方が多かったことも考えると、短い会期となってしまったのが大変悔やまれます。

7月以降はかろうじて当館主催の展覧会に変更はなく、予定通り開催することができました。ただ、私は教育普及事業を担当していますので、「大勢が集まることができない」状況下では8月末まで全く事業が開催できず、学校団体の来館もなく、大きく変更を余儀なくされました。

同時に、そもそもの教育普及の考え方を問い直すべきか否かという点が悩みどころでした。美術館の教育普及事業は、美術館の役割である「収集・保管・研究・展示」を様々な形で伝えるものと捉えています。そのために直に施設に来てもらう体験が最重要。美術館という施設と作品を通して、人や物の交流が生まれ記憶や記録が残っていくことが大切と考えています。そのため、春には何本か動画配信を行いました。多くの施設が取り組んでいたような、本格的なオンラインワークショップ、オンライン鑑賞会といった手法を用いることには難しさを感じていました。ただ、最近の他館の例を見ると、今年度初めの頃に比べ遠隔事業にもバリエーションが増え、基本的な考え方を変えなくてもこの状況下で面白いことができるかもしれないと、ようやく思い始めています。

また、これからは今まで続けてきた事業も少し形を変えて開催します。2021(令和3)年2月28日から開催している「電線絵画展」では担当学芸員によるギャラリートークのかわりに定員制のスライドトークを、ワークショップも人数を減らし、出入り時の手の消毒、使用した道具の衛生に気を付けながら行っています。少しずつ通常の事業に近づきながら、そのつど状況にあった内容も生み出していければと思っています。

練馬文化センター



出演：梅田俊明（指揮）、秋山紗穂（ピアノ）
東京都交響楽団（管弦楽）

フレッシュ名曲コンサート 東京都交響楽団

2022(令和4)年2月13日(日)

東京都交響楽団と気鋭の若手ピアニストの共演を心ゆくまでお楽しみください！ 共催：公益財団法人東京都歴史文化財団（東京文化会館） 企画協力：東京オーケストラ事業協同組合

石神井公園ふるさと文化館



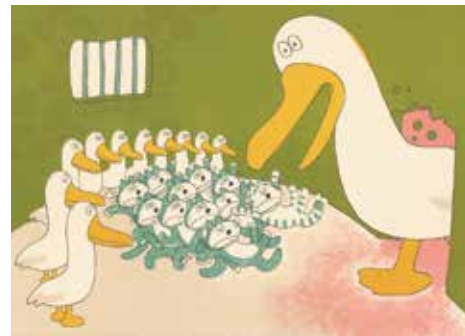
内部の調査

石神井城 中世豊島氏ここにあり

2021(令和3)年4月3日(土)～5月30日(日)

石神井城跡（中世豊島氏の城跡・東京都指定文化財 史跡）の発掘調査の成果や、関連資料を展示します。

練馬区立美術館



『11びきのねことあほうどり』
こくま社 1972年刊
印刷原稿
（特色刷り校正用リトグラフ）

没後20年 まるごと馬場のぼる展 描いた つくった 楽しんだ ニヤゴ！

2021(令和3)年7月25日(日)～9月12日(日)

絵本や漫画の仕事、50年分のスケッチブック、絵画や立体作品などから、練馬区ゆかりの漫画家・馬場のぼるをまるごと紹介します！

4月	4月25日(日) 18:30～19:30 大泉学園ゆめりあホール アフタヌーン・ミニコンサート ～20歳へのメッセージ～	申込受付終了
5月	5月13日(木) 19:00～21:05 練馬文化センター小ホール 万作・萬斎狂言の会 ～蚊相撲・千鳥・福の神～	全席指定 5,000円
	5月19日(水) 14:00～14:30 練馬文化センター小ホール アフタヌーン・ミニコンサート in 練馬	無料 ※要事前申込・抽選 問合せ：03-3993-3311
	5月29日(土) ①12:00～ ②16:00～ 練馬文化センター大ホール 島津亜矢 歌怪獣襲来ツアー 2021	全席指定 S席6,800円 A席5,000円
6月	6月5日(土) 14:00～16:00 練馬文化センター大ホール 東京ニューシティ管弦楽団 第4回練馬定期演奏会	全席指定 SS席8,000円 S席5,000円、A席4,000円 B席3,000円、C席2,000円

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演が中止または延期となる場合がございます。
各公演の最新情報、ご来館にあたっての注意事項等につきましては、施設のホームページをご確認ください。掲載情報は、2021(令和3)年3月11日現在のものとなります。

その他会場

6月	6月15日(火) 14:00～14:30 関区民ホール(関町北1-7-2) アフタヌーン・ミニコンサート in 関町	無料 ※要事前申込・抽選 問合せ：03-3993-3311
----	---	----------------------------------

チケット
購入方法

【電話】03-3948-9000

10:00～17:00 / 練馬文化センター予約電話

※チケットは、窓口や郵便振替でお引換えができます。

【窓口】●練馬文化センター1階チケットカウンター

●大泉学園ゆめりあホール5階事務室受付

10:00～20:00 / ※予約受付開始日の翌日10:00から、

窓口で購入およびお引換えができます。

【インターネット】<https://www.neribun.or.jp/nerima.html>

事前に利用登録が必要です。(無料)

①練馬文化センターホームページの「インターネットチケット販売」バナーをクリック。

②「利用登録」から必要事項を入力してください。

●予約方法 登録したメールアドレス、パスワードで

「ログイン」するとチケット予約が行えます。

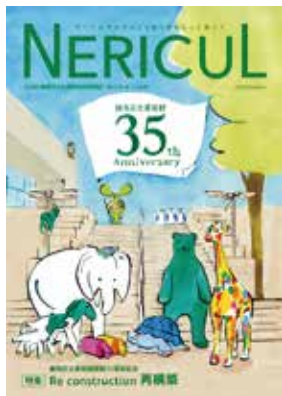
※チケットは、セブン・イレブンや郵送などで受取れます。



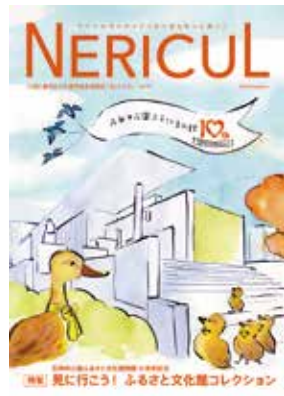
特に記載のない公演については、未就学児入場不可。車いす席、難聴者イヤホンをご希望の方は、予約電話までお申込ください。

『NERICUL』バックナンバーはホームページから閲覧できます！

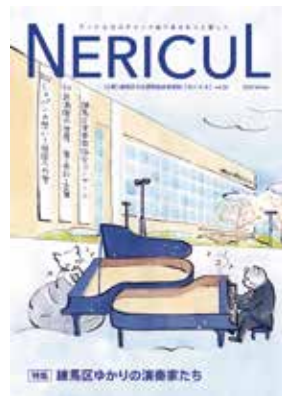
(公財)練馬区文化振興協会ホームページの広報誌のページから、『NERICUL』の全てのバックナンバーを閲覧することができます。



vol.18「Re construction 再構築」
練馬区立美術館開館35周年を記念して行われた所蔵品と現代作家4名による美術館での鑑賞という体験を再構築していく展覧会



vol.19「見に行こう！ふるさと文化館コレクション」
石神井公園ふるさと文化館の所蔵品の中から練馬の歴史を語る上で欠かせない資料や他館もوراやむ貴重な資料を紹介



vol.20「練馬区ゆかりの演奏家たち」
区ゆかりの演奏家で構成されている練馬区演奏家協会の活動と3月のコンサートの出演者のインタビューを掲載

閲覧方法

協会ホームページ
(<https://www.neribun.or.jp/>)
の「広報誌・友の会」から
「NERICUL ねりかる」をクリック



『NERICUL』掲載のイベントレポートは、協会ホームページのイベントレポートページからまとめて閲覧することもできます。



閲覧方法

協会ホームページの「イベント」から「イベントレポート」をクリック



企画展「石神井城 中世豊島氏ここにあり」

4月3日(土)～5月30日(日)

石神井公園ふるさと文化館のある石神井地域には、今から550年程前に「石神井城」がありました。東京都における重要な遺跡として、都の文化財(史跡)に指定されています。

石神井城跡では、昭和30～40年代にかけて、東京都教育委員会による発掘調査が行われました。中世城郭の本格的な調査のさきがけとして注目されましたが、その出土品は長らく未公開で、一般に見ることはできませんでした。

本展では、このたび練馬区に移管された出土品を公開するとともに、平成10年～15年にかけて区が行った調査の出土品も交え、石神井城にまつわる関連資料を展示します。

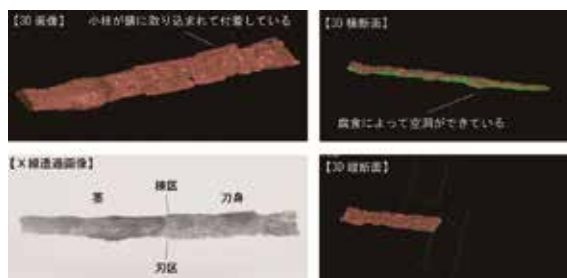
時 間 9:00～18:00

休館日 月曜日 ※ただし、5月3日(月・祝)は開館、5月6日(木)は休館。

観覧料 無料



石神井城跡(堀と土塁)



石神井城跡出土小刀のX線透過画像/3D再構成画像

ココが
おすすめ!

東京都や練馬区によって幾度となく調査されてきた石神井城跡の出土遺物を総ざらい!これだけの遺物が一堂に会するのは初めてのこと。お見逃しなく。

常設展示

観覧料:無料

「江戸・東京近郊の暮らし」を大きなテーマに、練馬区の歴史、民俗、伝統文化の特色を紹介しています。ふ=ふれあい(交流)、る=ルーツを知り、さ=さわることができて(体験型展示)、と=とりかえられる(定期的に更新)をコンセプトに、練馬区の歴史、民俗、伝統文化、アニメーションに関する展示を行っています。

石神井公園ふるさと文化館 分室

特集展示「誕生100年 五味康祐

—時代は揺れ、五味は書いた—

4月17日(土)～6月27日(日)

練馬区ゆかりの芥川賞作家である五味康祐(大正10(1921)～昭和55(1980)年)の生誕100年を記念する特集展示。約2万点におよぶ五味コレクションの中から、純文学を志した若き日の資料や、時代小説に関する資料、音楽関係資料、自身の命終を言い当てた観相に関する資料、美術工芸品などを展示し、文学と音楽とともに戦中から高度成長期を時代の鏡のように生きたひとりの作家の足跡を辿ります。

時 間 9:00～18:00

休室日 月曜日

※ただし、5月3日(月・祝)は開室、5月6日(木)は休室。

観覧料 無料



尾張柳生家伝来の臨指 銘：備州長船左近太夫師光 応永7(1400)年 当館蔵(前期4/17～5/23展示)



書斎にて 昭和51(1976)年 写真提供：文藝春秋

常設展示

観覧料:無料

作家・檀一雄の書斎再現をはじめ、練馬区ゆかりの文化人44人の紹介等や区ゆかりの時代小説家の五味康祐の貴重なオーディオ装置等を展示しています。

特集展示終了後は、山田風太郎、武林無想庵、五味康祐と「占い」について展示します(7月10日(土)～)。

電線絵画展 —小林清親から山口晃まで— 開催中～4月18日(日)

街に縦横無尽に走る電線は美的景観を損ねるものと忌み嫌われ、電柱が地中化されスッキリと見通しの良い、青空が広がる整然とした街並みに誰も憧れを抱くことは否めないでしょう。しかし、そうした雑然感は飾らないそのままの風景であり、ノスタルジーと共に刻み込まれている都市景観なのです。

この展覧会は明治初期から現代に至るまでの電線、電柱が果たした役割と各時代ごとに絵画化された意図を検証し、東京の姿を電線で読み解いていこうとするものです。油彩画、日本画、版画、立体作品等、約130点で、近代都市を新たな視点で見つめなおします。

時間 10:00～18:00

休館日 月曜日

観覧料 一般1,000円、高校・大学生および65～74歳800円、中学生以下および75歳以上無料、その他各種割引あり(一般以外の方は年齢等の確認できるものをお持ちください)

出品協力/東京国立近代美術館



小林清親《從箱根山中富嶽眺望》
明治13年(1880) 大判錦絵 千葉市美術館蔵



山口晃《演説電柱》平成24年(2012) ペン、水彩、紙 個人蔵
©YAMAGUCHI Akira, Courtesy of Mizuma Art Gallery

ココがおすすめ!

日本最古の電線絵画! ペリーがもたらした電信機の実験が横浜で行われました。嘉永7年(1854)に描かれた日本初の電信柱、電線の絵をご覧ください。

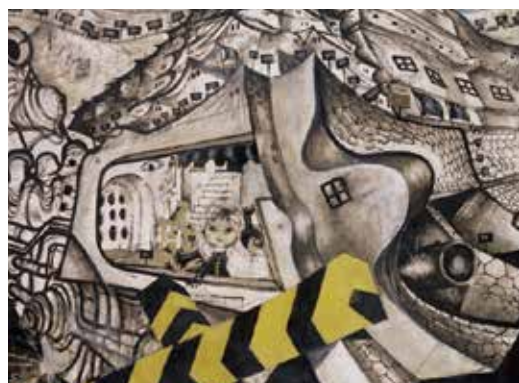
「8つの意表 絵を描く、絵に描く、画家たちのキセキ」展 4月30日(金)～6月20日(日)



鍋木昌弥《鳥たちの頃》2005年 グワッシュ、紙



野見山暁治《アニタ》1955年 油彩、カンヴァス



中村宏《蝨起せよ少女》1959年 油彩、カンヴァス

ココがおすすめ!

久々に美術館の全館を使ったコレクション展。日本の近現代に異彩を放つ、絵画の数々を展示します。

「意表をつく」という言葉があります。おおむね「相手の予期しないことをする」という意味で用いられますが、「意表」は字義に近く「ここをあらわす」という意味で使われることもあります。本展ではこれをキーワードに、当館コレクションより下記8人のアーティストを選び、それぞれの二重の意味での「意表」を複数の個展形式で観覧します。

大沢昌助(1903～97) / 古沢岩美(1912～2000) / 野見山暁治(1920～) / 小野木学(1924～76) / 草間彌生(1929～) / 中村宏(1932～) / 近藤竜男(1933～2019) / 鍋木昌弥(1938～)

(生年順)

明治末年から令和にいたる、激動する日本を生きてきたアーティストたちが、どのようにして社会と自己を見つめ、「意表」を行ってきたかを紹介いたします。

時間 10:00～18:00

休館日 月曜日

※ただし、5月3日(月・祝)は開館、5月6日(木)は休館。

観覧料 一般500円、高校・大学生および65～74歳300円、中学生以下および75歳以上無料、その他各種割引あり(一般以外の方は年齢等の確認できるものをお持ちください)

イベントレポート

EVENT REPORT

練馬区文化振興協会では、観る・聴く・学ぶ・参加するなど、様々なイベントを開催しています。その魅力をレポートします。

感じたままに、自由に、楽しく！ ネリビのワークショップで美術と遊ぼう

「ひらかれた美術館」としてさまざまなイベントを展開している“ネリビ”こと練馬区立美術館。教育普及事業の一環として開催されるワークショップも、美術をより身近に感じてもらえるよう工夫され、「美術館が特別なものではなく、日常の一部として気軽に来れる場所になってほしい(学芸員の真子さん)」という思いが込められています。今回のイベントレポートでは美術の楽しさを体感できるワークショップを2つ、ご紹介します。

まずはじめに、1月17日に開催された「まねして、組み合わせ、自由な模写」です。美術館の所蔵品をカードにした教材を使ったワークショップで、参加者は80枚の作品カードの中から好きなものを数点選び、それらを自由に組み合わせた1枚の絵を“模写”します。まずはカードで作品の観察からスタートです。「葡萄の絵はどれでしょう?」「蝶は何匹いる?」など学芸員が出すクイズに答えながら作品細部を見ていきます。それから展示室へ移動し、実際の作品を鑑賞します(*)。そして選んだカードとにらめっこしながら模写を進め、完成を目指します。美術作品を深く鑑賞して、美術館で作品と対面し、絵を描く…。1枚の模写を完成させるまでの過程は、美術をより身近に感じられる体験となったはず。参加者の完成作品にもそれぞれの視点が素晴らしく表現されていて、とても興味深いワークショップでした。



「所蔵品カードで遊ぼう」の様子。
(上段左) 2006年に制作した所蔵品カードを、一昨年にリニューアルしました。区内の学校でも使われている教材です。(上段右) 学芸員の解説にも興味津々です。(下段左) 選んだ作品をよく観察して模写に取り掛かります。画材は何を使っても自由です。(下段右) 完成した作品を並べます。所蔵品から新しい作品が誕生しました!どの絵も大胆で迫力があります。

所蔵品カードで遊ぼう 「まねして、組み合わせ、自由な模写」

《練馬区立美術館》
2021(令和3)年1月17日(日)

ネリビラボ 好きな材料で自由に造る/描く!実験室(ラボ)

《練馬区立美術館》
2021(令和3)年1月24日(日)・2月7日(日)・3月7日(日)



「ネリビラボ」の制作風景。
(上段左) 素材は使いたい放題。画材から布、金属、木材、枝(!)までなんでもそろっています。(上段右) 保育園での指導もしているイラストレーターの中澤季絵さん(写真内右)は第1回目からのスタッフです。「ネリビラボは子どもたちが自然体で作っているのが素敵ですね」(中段~下段) 真剣な表情で取り組む子どもたちから、個性豊かな作品が生まれます。

続いて1月24日から計3日間、小・中学生を対象に行われた「ネリビラボ」です。今回で開催2回目を迎えたワークショップです。参加者は各々美術館にある画材や素材を自由に使い、「作りたいもの」を“作りたいだけ”作ります。1日で完成させても、3日間かけてじっくりと作っても、未完成でも構いません。初めての道具や画材にチャレンジするのも自由です。子どもたちの創作意欲のまま進めていくので、どんな作品が飛び出すか予想が付きません!学芸員やアーティストのスタッフも常駐しますが、危ない時や困った時だけのお手伝いなので、基本的には「自主制作」です。おしゃべりしながら取り組む子、黙々と作品を作る子、それぞれの創作スタイルから次々と作品が生まれ出されていく様子は、見ているだけでもワクワクしました。「ネリビラボ」は今後も新しい試みを実験的に取り入れていく“進化するワークショップ”だそうで、これからも子どもたちの感性を刺激する出会いが待っていることでしょう!

今後も世情に合わせてながらワークショップは開催予定なので、ぜひ“ネリビ”から美術の世界へ遊びに行ってみてください。



練馬区立 石神井公園

ふるさと文化館分室
NERIMA SHAKUJIKOEN FURUSATO MUSEUM

☎ 03-5372-2572 ▶ 03-3996-4060 (4月1日から)

[住所] 練馬区石神井台1-33-44
石神井松の風文化公園管理棟内
(西武池袋線「石神井公園」駅下車徒歩15分)

[FAX] 050-3352-2983 ▶ 03-3996-4061 (4月1日から)

[開室時間] 9:00~18:00

[休室日] 月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始、臨時休室日

[料金] 観覧無料

※4月から分室のお問合せ先が石神井公園ふるさと文化館に変わります。



練馬文化センター
NERIMA CULTURE CENTER

☎ 03-3993-3311

[住所] 練馬区練馬1-17-37
(西武池袋線・西武有楽町線・
都営大江戸線「練馬」駅下車
徒歩1分)

[FAX] 03-3991-9666

[休館日] 年末年始
(保守点検日は、一部施設のご利用ができません)



大泉学園

ゆめりあホール
OIZUMI GAKUEN YUMERIA HALL

☎ 03-5947-2351

[住所] 練馬区東大泉1-29-1
(西武池袋線「大泉学園」駅
下車徒歩1分)

[FAX] 03-5905-2021

[休館日] 年末年始
(保守点検日は、一部施設の
ご利用ができません)



練馬区立 石神井公園

ふるさと文化館
NERIMA SHAKUJIKOEN FURUSATO MUSEUM

☎ 03-3996-4060

[住所] 練馬区石神井町5-12-16
(西武池袋線「石神井公園」駅下車徒歩15分)

[FAX] 03-3996-4061

[開館時間] 9:00~18:00 (会議室の利用は21:30まで)

[休館日] 月曜(祝休日の場合は翌平日)、
年末年始、臨時休館日

[料金] 常設展示は観覧無料(特別展は有料)



練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

☎ 03-3577-1821

[住所] 練馬区貫井1-36-16
(西武池袋線「中村橋」駅
下車徒歩3分)

[開館時間] 10:00~18:00
(入館は17:30まで)

[休館日] 月曜(祝休日の場合は翌平日)、
年末年始、展示替えなど
による準備期間中

[料金] 展覧会により異なる



ご来館予定のみなさまへ

新型コロナウイルス感染拡大防止の
対策にご協力をお願いします。



マスク



手洗い



咳エチケット



十分な間隔



体調不良



入場制限

- ・マスクをご着用ください。
- ・咳エチケット、手洗いなどにご協力ください。
- ・館内では、隣の方と十分に距離を保ってください。
- ・体調に不安のある方は、来館をご遠慮ください。
- ・入場制限等を実施する場合がございます。

公益財団法人 練馬区文化振興協会 **友の会 会員募集中!** 年会費:2,500円(税込) 会員期間:入会月から1年間

公益財団法人練馬区文化振興協会が管理運営している施設の公演や展覧会などがお得に楽しめます!

特典
いっぱい!

1 情報誌を毎月郵送

2 チケット10%オフ

・練馬文化センター
・大泉学園ゆめりあホール

3 チケット優先予約

・練馬文化センター

4 展覧会にご招待

・石神井公園ふるさと文化館
・練馬区立美術館

5 会員限定イベント

・石神井公園ふるさと文化館
・練馬区立美術館

*各特典には条件があります。

入会申込

窓口

郵便振込

インターネット

いずれのお手続きでも料金は2,500円です。

*郵便振込の場合、別途振込手数料がかかります。

*各特典や入会方法など、詳しくは
<https://www.neribun.or.jp/> をご覧ください。



NERICUL(ねりかる) vol.21 2021(令和3)年 春号 発行日/2021(令和3)年3月25日

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、掲載イベントが中止となる場合がございます。
詳しくは、お問い合わせいただくか、各施設のホームページ等をご覧ください。

発行:公益財団法人 練馬区文化振興協会 東京都練馬区練馬1-17-37 ☎ 03-3993-3311 (4月1日からは東京都練馬区豊玉北5-28-3豊玉館 ☎ 03-6914-7305)

『NERICUL(ねりかる)』は、本号をもって休刊となります。ご愛読ありがとうございました。